



敬愛の腕固く組み  
いざ行かも若人われら





### 「台湾研修旅行記」

第三十七代校長 三和 聖徳

「令和7年度青森の新たな未来を切り拓くグローバル人材育成事業」として12月23日から27日まで4泊5日の日程で台湾研修へ行った。参加生徒は1年生6名、2年生10名、引率は伊藤先生、三上先生、私の合計19名での旅行となった。

活動初日は現地観光が主であった。この時担当であったツアーコンダクターの羅(ラー)さんが、非常に素晴らしい方であった。羅さんは一時日本に滞在したことがあるように、日本の文化、歴史に精通しており、バスの中、或いは観光先での説明が大変興味深かった。とりわけ総統府、故宮博物院でその力は発揮され、日本との関係も含めながら時にはジョークも交えて話してくれた。

知識を情報として伝えるのではなく、彼女自身の日本、台湾における文化観、歴史観を踏まえた上で伝えていくことだ。例えば日本統治下の台湾の情勢をどう捉えるか、については台湾の方々の間でも様々考え方があろうが、それをポジティブな史実として説明してくれたことで、なるほど台湾が親日国として認識されているのは合点がいった。

食事をきちんととれていたことも良かった。慣れない外国では口に合わないものもあったと思うが、レストランで積み上げられた空の皿を見たときこれは大丈夫、と安心したものである。

さて、永春高級中学校との交流では、生徒は本心に頑張った。オンラインでの交流など事前にコミュニケーションの授業参加におけるグループディスカッションや、歓迎会での歌やダンスの披露はなかなか立派なものであった。

旅行中体調不良者が1人も出なかつたのが素晴らしい。また



旅行中体調不良者が1人も出なかつたのが素晴らしい。また



### 「新時代を担う若人へー不確実な国際環境を越えて」が未来を拓く

PTA会長 野崎 巖

厳しい寒さがなお残る中にも、わずかな春の気配が感じられる頃となりました。日頃よりPTA活動に温かいご理解とご協力を賜る保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

この一年、五所川原高校では、五高祭や体育祭、地域との協働活動、そして部活動の挑戦など、生徒たちが自ら考え、責任を持って行動し、仲間と共に成長する姿が多く見られました。主体性と規律を重んじる五高らしい一年であったと強く感じています。

いま世界は、急速な変化と緊張のただ中にあります。国際情勢は不透明さを増し、各国が自国の安全保障体制を見直す動きが加速しています。日本においても、防衛力の強化や経済安全保障の確立が重要な課題として議論され、国

家としての備えが問われる時代となりました。こうした環境は、遠い世界の出来事ではなく、エネルギー価格の変動や物価上昇など、私たちの日常生活にも直接影響を及ぼしています。

このような不確実な時代を生き抜くために必要なのは、状況を正しく見定め、自ら判断し、行動する力です。3年生の皆さんは、受験という大きな挑戦に向き合いますが、先輩を導き、学校行事を支え、五高の中心として堂々と歩んできました。その姿勢は、どんな時代でも通用する強さそのものであり、社会の変化に負けない確かな力をすでに身につけています。どうか胸を張り、自らの選んだ道を力強く進んでほしいと思います。

保護者の皆さまにおかれまして

は、社会情勢が揺れ動く中でも、お子さまの成長を支え続けてこられたその歩みに、深い敬意を表します。家庭という最も身近な共同体の支えがあったからこそ、生徒たちはここまで成長することができました。卒業はお子さまにとつての節目であると同時に、保護者の皆さまにとつても大きな区切りです。どうか今日までの歩みを誇りに感じていただければ幸いです。

五所川原高校で過ごした日々が、3年生の皆さんの未来を照らす確かな光となり、地域と日本の力となることを願い、皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。

### 「研究の意義」

教頭 鈴木 勝



10月の第一週はノーベル賞が発表された。今年は、生理学・医学賞に大阪大学特任教授の坂口志文先生、化学賞は京都大学特任教授の北川進先生が受賞された。日本人のダブル受賞は2015年以来10年ぶりの快挙となった。今回は、化学賞を受賞した北川進先生の功績について述べたいと思う。

北川先生の研究は、金属と有機化合物を組み合わせて「多孔性配位高分子」という特殊な構造の結晶の合成である。この物質には目に見えないほど小さな、ナノサイズの「穴(細孔)」が無数に空いていて、北川先生はこの「空隙(くうげき)」「何もない空間」に着目した。この構造により、その小さな穴の中に、地球温暖化の原因となる二酸化炭素だけを閉じ込め

り、あるいはエネルギー源となる水を蓄えたりすることができ、環境・エネルギー・ライフサイエンス分野に革命的な可能性が生まれている。

北川氏は発表後の記者会見で、「新しいことをするチャレンジは科学者の醍醐味で、辛いこともいっぱいあったが、新しい物を作っていくことで30年以上楽しんできた。」と述べている。「チャレンジし続けることを楽しむ。」という言葉が非常に印象的だった。

これまでの学習は「用意された正解」をいかに早く正確に導き出すかが中心だった。しかし、現実社会には「これをすれば100点」という正解がないことが多い。北川先生が実践してきた研究とは、「なぜ?」「どうすればいい?」と自ら問いを立て、試行錯誤するプロセスである。この経験が、正解のない時代を生き抜く「たくましさ」に直結するのではないだろうか。

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの人生は、まだ始まったばかりです。時には失敗することもあるでしょう。しかし、その中には思わぬ宝物が眠っているかもしれません。視野を広く持ち、いろいろなことに対応できる力を身につけてください。皆さんの活躍を期待しています。



### コミュニケーション

健全育成委員長 齋藤 美代

三年生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度、私はPTA健全育成委員として活動させていただきました。一人の母親として、また学校に関わる保護者の一人として、生徒の皆さんの成長をそばで感じることができた、ありがたい一年でした。活動の中では行き届かない点もあったかと思いますが、先生方をはじめ、保護者の皆様、そして生徒の皆さんのご理解とご協力に支えられ、無事に一年を終えることができました。心より感謝申し上げます。

生徒の皆さんは、部活動や勉強、学校行事に励む毎日の中で、忙しくも充実した時間を過ごしてこられたことと思

います。気が付けば進路選択という大きな節目を迎え、不安や迷いを感じることもあるかもしれません。そんな時こそ、家族や友人、先生との何気ない会話や、気持ちを伝え合う時間を大切にしたいと、母親の立場から願っています。

言葉を交わし、思いを共有するコミュニケーションは、人と人とのつながりを深め、心の支えとなる大切なものです。これから先も、その力を信じて歩いてほしいと思います。

最後になりますが、先生方、生徒の皆さん、そして保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。



### 広報活動に携わって

広報委員長 田村優美子

3年生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

約30年ぶりに懐かしい気持ちで母校である五高校舎に足を踏み入れた娘の入学式から、早いものでもう3年が経ちました。入学式後の役員決めで軽い気持ちで広報委員を引き受けてしまいましたが、広報委員会活動を通して、委員の方々と検討協議したり、研修に参加する度に、『はるにれ』を発行する意義と重要性を認識することができ、五高の魅力を多くの方々に知ってもらう活動に携われたことは、保護者として大きな喜びとなりました。

現代は、知りたい事があれば簡単にWebで調べられ、SNSで誰でもいつでも発信することができますが、紙媒体の広報誌は、手に実際に取り、じっくり読め、手元に残る、という利点がある重要なツールだと感じています。今後も五高の魅力を発信する『はるにれ』の発展を願うと共に、皆様の一層のご協力もお願いしたいと思います。

最後に広報委員会活動にご指導頂いた顧問の鈴木先生はじめ、ご協力頂いた先生方、保護者の皆様、生徒の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



### PTA活動を振り返って

研修委員長 山形 裕子

3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。あんなに幼かった子ども達は、もう高校卒業です。そして、大人の階段を昇り始めている姿に、親としては感慨ひとしおですね。嬉しいのに何だか泣けてきますね。

微力な自分でも誰かの役に立つのであればと思い、研修委員の活動に参加しました。2年間研修委員長を務めさせていただきました。何の心配もなくやってこられたのは、担当の川口先生や先生方が気さくで、いつも温かく接してくれたからです。ありがとうございました。

最初は、保護者同士遠慮がちでしたが、一緒に活動しているうちに仲間意識が芽生えて面白くなってきました。相

棒と呼びたくなる仲間が増えて、会うたびにノリが良くなったなあと、思い返しています。研修会や研修旅行の機会に、ゆるく、気軽にふれあい、気持ちが若返りました。懐かしい母校でのPTA活動は、視野を広め、人とつながることを心から楽しむ経験となりました。本当に3年間ありがとうございました。



### 新たな門出に幸あれ

三学年部会長

川浪 善嗣

卒業生、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。思い返せば3年前、五所川原での入学でした。コロナ禍が落ち着き、ようやく普通の学校生活を送れると安堵の中での門出だった事を思い出します。それから五所川原高校でいろんな出会いや学び、体験があり、卒業生の皆様にとっても我々保護者にとっても、あっという間に過ぎた3年間だと感じています。

卒業生の皆様、4月からそれぞれ新しい環境に身を置き生活をスタートさせます。18歳が成人になったことでこれからは大人としても第1歩を踏み出すこととなります。自分で考え自分で選択し自分で決めて進む場面が増え、その結果も受け止めて行くこととなります。いろいろな不安や戸惑いも感じる事でしょう。考え方や価値観の違いから、今までの当たり前が通用せず、否定的な言動と向き合う事もあるかもしれません。大昔、若いうちは失敗を恐れず何でもチャレンジしてみろと言われてきた事がありました。今考えると本当にやりたいた事にチャレンジせず、頑張りもせず、無難に選択して自分の考えだけが通用する世界に閉じこもるなど言い換えられそうです。失敗はできればしたくないものですが、若いうちは気持ちも体力もあり、失敗から回復するエネルギーがあります。いろいろな環境や人と出会い、考えの違いや言動の失態の一つの考え方や選択の結果として受け止め、自分を高める成長の糧にする事ができると思います。是非自分の可能性にチャレンジ

な不安や戸惑いも感じる事でしょう。考え方や価値観の違いから、今までの当たり前が通用せず、否定的な言動と向き合う事もあるかもしれません。大昔、若いうちは失敗を恐れず何でもチャレンジしてみろと言われてきた事がありました。今考えると本当にやりたいた事にチャレンジせず、頑張りもせず、無難に選択して自分の考えだけが通用する世界に閉じこもるなど言い換えられそうです。失敗はできればしたくないものですが、若いうちは気持ちも体力もあり、失敗から回復するエネルギーがあります。いろいろな環境や人と出会い、考えの違いや言動の失態の一つの考え方や選択の結果として受け止め、自分を高める成長の糧にする事ができると思います。是非自分の可能性にチャレンジ



保護者によるあいさつ運動



校外研修 (十和田・八戸)



地区研修会



PTA総会





コツコツが勝つコツ

今 公明(33HR 風佳)

卒業おめでとう。

兄、姉の時と同じく、やはりあっという間の3年間でした。3人兄姉の末っ子で、よく喋るムードメーカー的存在だった風佳が、段々口を開かなくなり、すっかり年頃の子になって、たまに帰りの車の中で話し始める時は、今日学校で気分の上がる良いことがあったのかなと思ひながら、話に耳を傾けていました。これも、もう無くなるのかと思うと寂しい気がします。

勉強や部活のバドミントンでは、毎日コツコツ頑張っていましたね。本当に努力を積み重ねるがんばり屋だと思いました。最後の総体前に足首の不調でカイロに通い、精神的なものからくる症状とのこと。追い込まれてる状態のところに、「頑張ってるの?」とさらに追いつめて、泣かせてしまったことは反省しています。無事ベストを尽くし、楽しく終われたと話してくれた時は、ホッとしました。

これから、新しい生活が始まります。自由度が増す分、責任も増えます。しっかり自立して、小さい頃からの夢を実現できるように、またコツコツ頑張ってください!

下山先生はじめ諸先生方や部活のコーチ、仲間の皆さんにはお世話になりました。ありがとうございました。

理希へ

秋元 五十鈴(34HR 理希)

2回の流産を経て理希が無事に生まれてきてくれた時、とてもとても嬉しくてこの子を守らなければと思いました。それからの子育ては朝が苦手な理希を大声で起こす事から毎日が始まり、習い事や塾や学校への送り迎え等、幸せながらも目まぐるしい日々でした。

五高に入学してからは、忙しくエネルギーに活動する姿がキラキラして見えました。放送部ではすごい人たちに恵まれ、頑張り賞を取りましたね。努力が身を結び自信がついて、それからの理希は少し凛々しく見えて、頼もしく思いました。大きく成長した3年間でした。

卒業おめでとう。

4月からは親元を離れて新生活が始まります。"凡事徹底" 当たり前の事を当たり前になす大切さと周りへの感謝を忘れず、新しい目標に向かって頑張ってくださいね。

最後に担任の野口先生と三上先生、顧問の大川先生と奈良岡先生、理希を導きサポートしていただき、ありがとうございました。

生まれてきてくれてありがとう

古川 久美子(35HR 憲仁)

まだヨチヨチ歩きだった頃。私が外に洗濯物を出しに行こうとした隙から肌着・おむつ姿で逃走した事がありました。あの時は本当に焦りました……。数百メートル離れた郵便局前で確保できましたが、もう絶対に目を離さないと反省した事を今でもはっきり覚えています。三人きょうだいの末っ子のあなたはとても活発でごんぼも大きかったけれど、「大きくなったら、お母さんと結婚してあげようか?」と言ってくれるとても愛らしい子供でした。

中学では、得意ではない英語スピーチコンテスト出場を先生に依頼され、夏休み返上で練習したこともありましたが、今思うとそのような経験は高校での理数科発表、大学受験での面接のプレゼンテーションの力となったのではないかと思います。高校では弓道の試合や、軽音のステージ発表等で私自身も楽しませてもらう経験をさせてもらいました。

これからは困難な場面に出会う事もあると思いますが、色々な事にどんどん挑戦して欲しいです。もう、すぐそばで見守る事は出来ないけれど、私はいつも応援しています。本当に苦しい時は迷わず頼りにしてね!

最後にこの場をお借りして。この五所川原高校で、我が家の三人の子供達に関わって頂いた全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



親から子へ

卒業生へのメッセージ

卒業おめでとう

～進む速度は人それぞれ～

中村 剛誠(31HR 寛太)

前途洋々 大志遠望 勇猛邁進 堅忍不拔 一年通天 雲外蒼天 贈る言葉は数あります。人は常に前を向きどんな未来が待ち受けても時に抗い時に受け入れその未来と共に進んでいく事 世の中に失敗なんかありません。挑戦するか、しないか ソシだけ 挑戦して違ったらアプローチ方法に問題があったもっと違う角度で考える。学習、学び、知識、経験それらを経て覚える経験、体験は記憶として頭の中に入れておける物 手を使わないので便利です。自身のアップデートしてください。卒業生の皆さん親のLINEスルーはせず最低でもスタンプで返答してください。たまには文字で返してください。親のインスタフォローは各自に任せます。3学年担当の先生方、各学科、進路担当の先生方、ご指導ありがとうございました。

卒業する皆さんはミyakミyakのぬい活しながらオンカジはせず、ネット、オールドメディアも注視し、チョコミントより企業風土でトランプ関税に振り回されないようにして卒業証書は19.2秒以上見せ、日本初の女性総理が誕生した。そんな時代だった。と思いが詰まった古いスマホを再起動する時があることでしょうか。

卒業おめでとう

大切な娘へ

前田 政樹(31HR 葉菜)

高校卒業おめでとう。三年間、本当によく頑張りましたね。朝早く家を出て、重たい鞆を持って帰ってくる姿を見送るたびに、父は何度も胸が熱くなりました。

楽しいことばかりではなかったはずなのに、逃げずに最後までやり抜いたこと、それだけで十分立派です。

思い返せば、何か迷った時、悩んだ時、あなたはいつも父のところに来てくれましたね。言葉少なに打ち明けるその横顔を、父は一生忘れません。うまく答えられたかは分からないけれど、頼ってくれたことが何より嬉しかった。

小さな頃、手をつないで一緒に歩いていたあなたが、いつの間にか自分の人生を真剣に考えるようになったのだなと、誇らしく思います。

これから先、思うようにいかない日もあるでしょう。それでも大丈夫。あなたは自分で考え、乗り越える力を、もう持っています。迷ったら、また父に話しに来なさい。何歳になっても、父はあなたの一番の味方ですから。

これから先も、父は変わらずあなたの歩みを見守っています。

卒業、本当におめでとう。

歩み

三戸 雅子(32HR 里桜)

卒業をひかえ、よく思い返すのは、部活後、車で迎えに行き待っている時のこと。たいていはここにこと走り寄り、「ただいま〜!」と言ってくれます。その日の出来事、自分の気持ちを話してくれる、私にとっては娘との愛しい時間の一コマでした。

多くの五高生がそうであるように、勉強と部活の両立はむずかしい事もあったと思います。吹奏楽部では新しい楽譜が次々と配られ、コンクール、演奏会、生徒会活動、学校行事、模試、、、小さな責任をまっとうする日々の連続は娘の心を強くする過程であったのだと今になってよくわかります。

そんな毎日の中で時々聴いた吹奏楽。心を合わせて、息を合わせて仲間と奏でる音楽は言葉にできない美しさで、胸いっぱい感動をもらいました。

これから出会う悩みや苦勞を、私が代わりに引き受けられたらと思う親バカなのですが、五高での充実した3年間は娘を成長させてくれたので、そろそろ手を離してみても大丈夫かもしれないと思うようになりました。

しあわせ多く感じる人生を歩んでいってください。その一部に私たち家族が在れたら、親としてともしあわせです。





34HR担任 三上 綾子

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

この学年は、中学校では丸々3年間コロナ禍だったので、我慢が多かった世代だと思います。高校も入学した頃はほとんどの人がマスクをしていましたが、いつの間にかマスクが外れ、互いの表情を見ながら過ごせるようになりました。部活動や学校行事もコロナ前と同様に行われ、大きな声で笑い合い楽しそうに過ごす生徒たちを見て、こちらも元気をもらいました。時には衝突や葛藤も経験し、大きく成長した3年間だったと思います。

私の姪はこの学年と同じ年で、この春高卒で就職します。姪が生まれた頃私は大学生で、兄姉の子どもの中で最初の子だったので成長を見るのが楽しみで、当時埼玉に住んでいた兄夫婦を夜行バスで何度も訪ねました。ハイハイをしていた頃、歩き始めた頃、動物を何でも「わんわん」と言って指さしていた頃、東日本大震災の余震や映像に怯えてお母さんに抱きついてた様子など、幼い頃のことが懐かしく思い出されます。この子達も同じ時を過ごし成長してきたと思うと感慨深く、自分の姪や甥のように愛おしく感じます。

卒業後もそれぞれの場所で元気に逞しく成長を続け、活躍することを期待しています。



35HR担任 野口 明敏

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

35HRの生徒は元気で授業の反応も良く、いつも楽しく授業をさせていただきました。また、文化祭の2年生のときのお化け屋敷や3年生の模擬店では、間に合うのか?と思うところを全員で協力して良い形で仕上げ、最後には大成功に収めることができました。定期考査や理数探究においても最後には帳尻を合わせて結果を残しており、すごい底力を秘めた生徒達だと思いました。

私は五所川原高校に赴任してから8年目で、今まで五所川原高校で学んだ知識や経験を最大限生徒に還元しようと考えて指導してきました。学業、学校行事のどの部分においても、35HRの生徒達は私の期待を上回る形で結果を残し、いままでの教員生活で最もやりがいのあるクラスだったと思います。きっと将来も多方面であっと驚くような結果を残すのではないかと期待しています。

充実した3年間を過ごさせてもらい、ありがとうございます。お子様の将来のご多幸とご活躍とを願っています。



33HR担任 片山 卓思

お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日という佳き日を迎えられたことを、担任として心より喜び申し上げます。また、この三年間、本校の教育活動ならびにクラス運営に多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

この学級は、何事にも真っ直ぐに取り組む情熱と、誰かを思いやる優しさに溢れた集団でした。部活動に全力を注ぎ、心身ともに逞しく成長する姿。苦手な課題に対しても、仲間と励まし合いながら粘り強く机に向かう姿。そして、行事の準備や日々の清掃など、誰かがやらなければならない仕事を「自分たちのために」と率先して引き受ける献身的な姿。そんな生徒たちの日常の積み重ねが、この温かいクラスの空気を作ってくれました。

時には悩み、立ち止まることもあったかと思えます。しかし、そのたびに一歩ずつ前を向き、今日こうして立派に旅立つ姿を見せてくれたことは、私にとっても大きな誇りです。これから先、それぞれが異なる道へと進みますが、ここで培った「粘り強さ」と「利他の心」があれば、必ずや誰かの光となる存在になれると確信しています。

最後になりますが、大切なお子様の成長の伴走者として共に歩ませていただいた二年間は、私にとってかけがえない宝物です。お子様の輝かしい未来と、ご家族の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

最後にありますが、大切なお子様の成長の伴走者として共に歩ませていただいた二年間は、私にとってかけがえない宝物です。お子様の輝かしい未来と、ご家族の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



3学年主任 下山 達彦

保護者の皆様、3年間大変お世話になりました。ご家庭における子どもたちへの深い愛情と本校教育活動へのご理解・ご協力によって、無事に令和7年度第78回卒業式が迎えられます。学年団を代表し心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

月並みですが子どもたちの成長とは早いものですね。「あんなにも小さくて可愛かった子」が「こんなにも凛々しくたくましい若者」に成長し、今まさに高校を卒業しようとしています。晴れの姿を目にされる皆様方のお気持ちを考えると私も胸が熱くなります。

毎年開催してきた学年PTAで生徒の状況をお伝えする際、いつも最初に伝えたい事とは「この学年は優しい人が本当に多いです」でした。その気持ちは今でも全く変わりません。同調圧力の強かった昭和の時代であれば浮いてしまうような強い個性であっても、無理なく平然と受け入れ関わっていく力を多くの生徒が持っています。そしてそのことが他者への「優しさ」につながっています。未知の課題を解決するためには、出会ったことのない価値観を知り、これまで組み合わせたことのない新たな組み合わせに挑戦する必要があります。この学年の生徒たちが持つ「優しさ」は、この挑戦を進めるための資質であると私は考えます。

未知なるものへの「好奇心」、包括する「優しさ」、挑戦する「勇気」を持ち、新たな時代をワクワクしながらしなやかに生きて欲しい。そう願っています。

ご卒業おめでとうございます。



32HR担任 秋田 奈月

ご卒業おめでとうございます。手をつないで歩いた小学校入学から今日の高卒業まで、これまでの道のりが感慨深く思い起こされていることと思います。

私も、出会った頃はいつも楽しげに笑い、のんびり構えていた彼らが、気づけば凛とした落ち着きを備えていたことに感動しています。赴任してすぐ22HRを受け持ち、2年間担任をさせていただきました。短い時間でしたが、この学年で共に過ごせたことをありがたく思っています。毎日が穏やかで、楽しく幸せな2年間でした。

32HRの生徒は普段は控えめですが、何が起きても騒ぎ立てずに、さりげなく対処できる深い思いやりを持っています。私自身、何度助けられたかわかりません。そんな場面に接するたび、ご家庭で寄り添う保護者の皆様の温かさを感じました。無事に卒業の日を迎えられたのは、ひとえに保護者の皆様のご支援とご協力のおかげだと感謝しております。至らない点も多々あったかと思いますが、この2年間、本当にありがとうございました。

それぞれの道を進む生徒たちを信じ、これからも応援しています。



31HR担任 山下 可名子

保護者の皆さま、この度はお子様方のご卒業おめでとうございます。

母校に赴任して3度目の卒業生を見送ることになります。経験を重ねるにつれてますます慎重になり、年齢を重ねるにつれて生徒との歳の差はますます開き、より良くできるようになったことは何一つなかったように感じますが、この3年間は私にとっては一番充実した、中身の濃い、思い出に残るものとなりました。それもこれも、可愛い生徒の皆さんのおかげです。普段の生徒たちの言動から、愛情たっぷりに育ててもらったことがいつも伝わってきました。生徒の皆さんと共に過ごした日常が愛おしく、グラウンドで「山下先生～」と大声で呼んでもらったこと、等身大パネルを作ってもらったこと、情報の授業で私のCDを仮想販売してくれたグループがあったことなど、いろいろ思い返すと涙が溢れてきます。担任冥利に尽きます。友人どうし思いやりをもって生活し、担任をいつも気遣ってくれる、そんな心優しい生徒たちでした。

これまで至らぬ点が多々あったにも関わらず、保護者の皆さまのご支援とご協力のおかげさまで、何とか卒業の日を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからのお子様方のご活躍と幸せな未来を心から願っております。





令和7年度 後期PTA・PTA後援会会務報告

	日	内容	場所
2月	12月 10日(水)	高P連西北地区協議会 第2回役員会・情報交換会	プラザマリユウ 五所川原
	10日(火)	高P連西北地区研修委員会 第2回理事会	五所川原農林 高校
	10日(火)	五高PTA研修・健全育成・ 広報委員会合同反省会	焼肉レストラン 一心亭
	12日(木)	健全育成委員会五所川原 ブロック第2回理事会	木造高校
	12日(木)	高P連西北地区健全育成委 員会第2回理事会	木造高校
	20日(金)	第2回 単位PTA会長会議	アップルパレス 青森
	27日(金)	PTA広報紙 「はるにれ」第101号発行	
3月	9日(月)	PTA・PTA後援会 第3回三役会・第2回役員会	本校
	18日(水)	高P連西北地区協議会 第3回三役会・役員会	五所川原農林 高校
	31日(火)	PTA・PTA後援会監査	本校

編 集 後 記



新年を迎え、皆さまのご協力のもと「はるにれ」101号が完成いたしました。

この度、ご卒業を迎える3年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

自分の可能性を信じ、色々な事に挑戦し、自分の未来が素晴らしいものでありますようにお祈り申し上げます。

今年度も残りわずかとなりました。1年生・2年生の皆さんも体調管理をしっかり行い、未来への準備に勤んでください。

次号の発行にもご協力の程、よろしくお祈りいたします。

広報委員 長尾英樹